

トゥ(土)族の「ゲサル」の収集と保存

王国明 (西北民族大学格薩爾研究院)

斯琴 訳 (千葉大学大学院)

1. トゥ族の「ゲサル」の分布

天祝チベット族自治州は中国甘肅省の中部にあり、祁連山^{きれんざん}の東端、河西回廊の入り口のところに位置する。この地域は東経 102' 31~103' 46 と北緯 36' 31~37' 55 にあたる。天祝地域は南は永登県に、東は景泰県に、北は武威市および古浪県に接し、西北は肅南県と、西は青海省の門源、互助、楽都県と接している。天祝自治県は東西、142.6 km、南北、158.4 km、総面積は 7000 強平方kmであって、海拔は 2080~4873mである。天祝自治県は甘肅省の武威地区に属し、5 カ鎮¹、17 カ郷²、221 カ村を管轄する。天祝自治県の中心地は華蔵寺鎮であり、甘肅省の中心地である蘭州市から 144 km、武威市から 132 kmのところにある。この自治県の名は県内にある有名な寺院である天堂寺と祝貢寺の最初の文字を合わせたものである。この県は中国において最初の設けられた少数民族の自治県である。県における農地の面積は 36.78 万ha、草原の面積は 587 万haであり、森林の面積は 346 万haである。天祝自治県の全人口は 2,267 万人であり、そのなかで漢人以外の少数民族は 33.4%であり、トゥ族の人口は 5.1%を占める。

中国においてトゥ族は主に青海省の互助、民和県および甘肅省の天祝チベット族自治州に集住し、その他甘肅省の卓尼、肅南、永登などの県にも散在する。ゲサル研究者である王興先は 1986~1995 年に調査研究を行い、その結果、トゥ族の「ゲサル」の内容の膨大さはチベット族とモンゴル族のそれと並んで 3 位になる。トゥ族の「ゲサル」は内容が多
いばかりでなく、独自性をも持つ。たとえば、トゥ族の「ゲサル」に見られる「阿布朗創
世史」という創世神話(伝説)は、その内容から見て、チベット族の「ゲサル」と異なる
特有のものであって、貴重な精神文化の遺産として重要視されている。トゥ族の「ゲサ
ル」には二種類の語りのスタイルがある。一つはメロディーをつけず、トゥ語で語るス
タイルであり、もう一つは散文の語りとメロディーをつけて語る形式が交替で行われるス
タイルである。つまり、韻文の部分はチベット語で語られ、その後にトゥ語で散文の語
りがある。散文の語りにはチベット語の韻文に対して解説する内容のものがある一方、
トゥ文化の独自のものを「ゲサル」に織り込んだ新しい内容もある。

甘肅省のトゥ族のなかで伝えられている「ゲサル」には主に「阿布朗創世史」、「チ
ョウトンの悪行」、「ゲサルの誕生」、「魔峠の大戦」、「霍(ホル)峠の大戦」という 8 部が

¹ 地区という行政区分の下位にある行政単位

² 行政単位

ある。トゥ族の「ゲサル」の語り手は 20 世紀の 90 年代まで 2、3 人はいたが、2007 年現在ではただ一人が健在である。トゥ族の「ゲサル」は主に天祝自治県およびその周辺地域に集中し、特に朱岔、天堂、石門という 3 鎮が中心となる。

中国における改革開放政策が進行するにつれて、チベット学の研究にも目ざましい進展があった。その一環として「ゲサル」の採録、テキストの出版および研究も着々と進んでいる。具体的に言えば、社会科学領域の重要な項目として「ゲサル」研究は中国の「六・五」、「七・五」、「八・五」という国家計画に連続 3 回挙げられた。また、「九・五」国家計画のなかでは、重要な出版項目に「ゲサル文庫」が挙げられている。そのほか、研究著作、論文などが続々発表されている。これらの業績から、中国政府がチベット族の文化遺産を非常に重要視していることが分かる。近年、政府は少数民族の文化遺産に対して発掘、採録およびその保存問題に力を入れる方針を示している。中国西部における開発政策は「ゲサル」研究の一層の発展に良い機会を与えてくれた。われわれはこのチャンスを活かすべきである。というのは、わが国において、チベット族の文化資源は豊富であるが、発掘されたのはほんの一部だからである。チベットの百科事典とされる「ゲサル」は古代チベット社会における民族関係や言語、宗教、民俗、政治、経済、軍事、神話、伝説などを全面的に反映し、膨大かつ奥深い内容をもって、世界の 8 大叙事詩³の一つと数えられる。

中国では、チベット族の英雄叙事詩「ゲサル」は民間で広く伝えられている。この伝承はチベット族の昔の生活スタイルが様々な視点から描かれた百科辞典のような存在である。チベット人は近隣の民族と接触する過程で、「ゲサル」はほかの民族にも受け継がれて広がった。そして、各々の民族の社会生活や伝統文化と融合し、様々な「ゲサル」のバージョンが形成された。本稿で紹介するトゥ族の「ゲサル」はその一つである。

トゥ族「ゲサル」は上巻（1996 年、甘肅民族出版社）、中巻（2000 年、甘肅民族出版社）が出版されてから国内外の研究者らの注目を浴びるようになった。中国の民間文芸の研究者である賈芝はこのように語った。「トゥ族の「ゲサル」には、違う世界が描かれている。主人公のゲサルは神でなく、国民の飢餓の問題を解決するため戦う人間の英雄であり、大衆から推挙された王である。トゥ族の「ゲサル」はその独自性が顕著である。この出版はトゥの言語が分からない研究者にとっても便利なものであり、さらに文学の専門教育および国際学術交流のためにも貴重な学術的な資料に違いない。これは権威のある版本である」[王興先 1996、2000]。また、本著出版の審査員である王振華⁴は、トゥ族の「ゲサル」は特に、第 4 回「ゲサル」国際学術会で国内外の研究者から高く評価されたことを明らかにしている[「中国図書評論」2000. 12]。言語学者、黄布凡はこう指摘した。「トゥ族の「ゲサル」によって、チベット族の「ゲサル」が広く分布していることが分かるば

³ バビロンの「ギルガメシュ」、古代ギリシャの「イリアス」と「オデュッセイア」、古代インドの「マハーバーラタ」と「ラーマヤナ」、中国における「マナス」と「ジャンガル」である。

⁴ 長年にわたってチベット学に関する出版物の仕事に携わっている人物。

かりでなく、異なる地域で採録された異伝の研究に重要な資料を提供し、トゥ族の歴史、社会、民俗、文学および言語の貴重な資料になる。さらに、これは言語学にとって、特別な価値があり、トゥ族の言語とチベット方言、および両者の相互関係を研究する上で大切な基礎資料である」 [「ゲサル文庫」第3巻 1996]。以上は中国における「ゲサル」学の先駆者によるトゥ族の「ゲサル」についての認識である。

2. トゥ族「ゲサル」の語りについて

王永福によれば、「ゲサル」の語りのスタイルや語りのプロセスは昔からの伝統を守っている。仮に昔からの伝統を守らなければ、叙事詩の中のゲサルなどの神々が不機嫌になり、語り部が不幸になると考えられている。そのため、語り手は「ゲサル」を語る、数日間前に遠く山奥に入り、6個から9個の泉の湧き出る場所で清らかな水を汲み、松と柏の木の梢を一束持ち帰り、燃やして語りの場を浄める。その後、語り部の衣装を身につけて、灯明や線香を点し、酒や泉の水を上界の天王神、中界の財宝神、下界の竜王神および様々な山や土地の神、家の神に捧げて、祝詞や祈祷文句を唱える。これは、悪霊を払い、幸福を祈る一方、ゲサルの神々に敬意を表すことになる。こうした行為を行ってから「ゲサル」の語りを始める。

トゥ族は自らの文字を持たない。また、長い間、トゥ族はチベット族と密接な交流があったため、トゥ族の「ゲサル」は独特な内容と語りの形式をもつ。すなわち、「ゲサル」を語る時、先に韻文の部分はチベット語でメロディーをつけて語り、その後、この韻文をトゥ語で解説する。この解説は単なる原文の翻訳ではなく、トゥ族の伝統文化の特質が織り込まれ、前の韻文とその次の韻文をつなぐ役割を果たしている。

トゥ族の「ゲサル」は主人公とあらましがチベット族の「ゲサル」と似ているほか、内容や構成およびプロットは、ほかの民族のそれと異なる。これまで整理して出版した2冊の「ゲサル」をみれば、主な内容は次のようである。

「虚空部」1-3 巻：上部天王神、中部の財宝神、下部の龍王神—天界におけるこの3柱の天神は四大州を造り、天、地、人が出来た。

「誕生部」1-3 巻：ゲサルは天から人間界に降臨し、人間の息子として生まれた。

「貧困の乗り越え」1-3 巻：ゲサルは人間界に降臨し、部族の領主として勢力を伸ばしていく。

「悪魔の国との大戦」1-3 巻：悪魔の国がゲサルの妻を奪ったため、ゲサルは悪魔の国を滅ぼして妻を救った。

「ツォトン（ゲサルの叔父）の死」1-3 巻：ゲサルは叔父のツォトンが悪事ばかりしたことを知って、彼を殺した。

「リ国との大戦」1-3 巻：天界の3柱の天神の指示に従って、山羊神と黄牛神は土を運んで四大州を造ったが、後に人間界に行き、悪事をしたため、ゲサルは彼らを殺した。

トゥ族の「ゲサル」がなぜこのような語りのスタイルを形成するに至ったのかという問題について、筆者は次のような理由を考えている。

- 1) トゥ族は、長い間漢族、チベット族、回族、モンゴル族といった多くの民族と混在したため、相互交流を通じて言語の面ばかりでなく、生活慣習、宗教信仰、および文学芸術などの影響を受けた。また、トゥ族は文字を持たない民族であるため、トゥ族の社会歴史を反映する神話、伝説、昔話、叙事詩、歌謡、諺、寓話などの口承文芸が口から耳、耳から口へと、代々伝承されてきた。
- 2) トゥ族の「ゲサル」は、当初導入されたときは、その形式はチベットの「ゲサル」と同じであったかもしれない。つまり、韻文形式と散文形式の両方ともチベット語で語られた可能性が高い。長い間、トゥ族の人々の中で伝えられるうちに、トゥ族の語り部はチベット族の「ゲサル」をトゥ族の生活、心理、観念、美についての観念、環境などに合わせて作り直して広めたと思われる。このように、トゥ族の文化が「ゲサル」に溶け込み、徐々にトゥ族の「ゲサル」が形成され、こうした過程でトゥ族の語り手はチベット語の韻文を保存しながら、これにトゥ語の解説を加えたと考えられる。また、トゥ族の「ゲサル」では、チベット語は古代チベット語の発音や語彙を残しながら、トゥ語の影響を受けている。

3. 語り手の系譜

現在、唯一のトゥ族の語り手、王永福（76歳）は膨大な「ゲサル」の伝承を語ることができる。

王永福の母方の祖父である恰黒龍江（1875～1946）は有名な語り部であった。王永福の父は義理の父（1890～1957）について「ゲサル」の語りを習得したが、後に失明し、「ゲサル」を語ることで苦しい生活を精神的に楽しんでいたという。彼は次第に有名な語り部になったが、自分の子供のなかで王永福の才能を認めて「ゲサル」を教えた。（1代目の人物の資料はまだ調査中）。

世代	人名	性別	生年	教育	継承方法	語り手の年数	所在地
1代目	霍爾・嘉馬雅	男	不詳	読み書きできない	家族伝承	不詳	青海省互助県
2代目	恰・黒龍江	男	不詳	読み書きできない	家族伝承	不詳	青海省互助県
3代目	楊増	男	1912	読み書きできない	義理の父から婿への伝承	1927年～	甘肅省天祝県天堂郷
4代目	王永福	男	1930	読み書きできない	父から息子への伝承	1942～現在	甘肅省天祝県天堂郷朱岔村

4. 「ゲサル」 伝承の危機と保存について

トゥ族の「ゲサル」は創造神話、英雄叙事詩が並存した典型的な叙事詩である。その内容は天地の混沌から人類の創造、諸物の起源から家畜の飼育、古代の部族から民族の生成と発展、さらに衣食住および習俗から、牧畜業、農業、政治、軍事、宗教などの諸分野に広がっている。したがって、トゥ族の「ゲサル」の採録と保存は全国の少数民族の精神文化に大いに貢献しうる。

口承文芸の採録と保存の方法は多様であるが、トゥ族の「ゲサル」はトゥ語、チベット語、中国語の 3 種類の言語に関係するため、研究と保存資料の整理や翻訳が問題となる。全面的に調査を展開し、「ゲサル」の語りの系譜を徹底的に調べて、歴史文化の遺跡や物質や伝説、伝承系譜およびその価値について状況を把握する必要がある。こうして調査で得られた資料の分類、整理と保存作業を行い、参考に値する名所旧跡を積極的に保存する。また、民間に散在する「ゲサル」を急いで採録してテキスト化する。それと同時に、語り手に援助を与えて、語りを次の世代に教え、若手の伝承者を育てる。

今日、唯一の語り手である王永福のもとには、録音されたカセットテープ 253 本のほか、未採録の叙事詩が多く残されている。その採録は急務である。

こうした調査を深めるなかで、民族学、民俗学、言語学などの多様な側面から「ゲサル」の比較研究を進め、民族文化の伝承における法則性を探る。さらに、このような研究から民族間の政治、経済の歴史を考察し、検証する。

筆者は語り部の王永福の息子であり、これまでずっと「ゲサル」の研究を行っている。これからトゥ族の「ゲサル」研究および保存問題が考えられる。具体的には 2008 年—2015 年にわたるゲサルの総合的研究を計画中である⁵。

⁵具体的な作業：

2008 年：

- 1) 語り部の高齢および体調状況によって研究は伝承の採録に重点をおき、100 本の録音テープを計画している。
- 2) 現地民間における「ゲサル」の伝承状況を調査。
- 3) トゥ族「ゲサル」の伝承系譜を詳細的調査。
- 4) 民間に伝えられる「ゲサル」伝承のチベット語文体を採録。
- 5) 若い世代の「ゲサル」伝承者の選定。

2009 年：

- 1) 100 本の録音テープのテキスト化。
- 2) 現地調査資料の分類、整理、保存。
- 3) 物質文化の保存と保護。

2010 年：

- 1) テキストの翻訳と出版。
- 2) 民間調査を進め、「ゲサル」の口承伝承の資料を集め、その語りスタイルを研究する。
- 3) 選定された若い世代の伝承者を育成する。

参考文献

- 『格薩爾学集成』1994 第3卷 甘肅民族出版社
- 王興先 王国明 1996『格薩爾文庫』第3卷 トゥ族『格薩爾』上卷 甘肅民族出版社
- 王興先 王国明 2000『格薩爾文庫』第3卷 トゥ族『格薩爾』中卷 甘肅民族出版社
- 王興先 2002『格薩爾論要』甘肅民族出版社
- 王国明 2004『土族「格薩爾」言語学研究』甘肅民族出版社
- 王国明 2004『土族「格薩爾」言語学研究』甘肅民族出版社
- 扎西東珠 王興先 2002『格薩爾学史稿』甘肅民族出版社
- 『甘肅日報』2000年12月9日
- 『中国図書評論』2000. 12

2011-2015年：

- 1) 100本テープの音声資料を充実させ、整理を完成させて出版する。
- 2) トゥ族「ゲサル」のメロディーの整理と研究。
天堂郷を中心に、トゥ族「ゲサル」の語りを広め、口承文芸を継承する。